

インドネシア共産主義 世界共産主義解体の一例 ラヤ・ドウナエフスカヤ

(1) 前提と歴史
インドネシアの歴史は、古くからアフリカやヨーロッパとの交易があり、世界で最も古い農業生産地帯の一つでした。しかし、第二次世界大戦後、独立運動が高まり、1945年に独立を果たしました。その後、ソ連や中国などの東側陣営への影響を受け、1945年から1965年にかけて、左翼勢力による政権が樹立されました。

(2) 政府と社会運動
1945年から1965年までの間に、ラヤ・ドウナエフスカヤが主導する「人民民主統一戦線」が、労働者階級、農民階級、知識階級などの組織を統合する形で活動を行いました。また、「人民民主政府」が樹立され、左翼勢力による政権運営が実現されました。

特別企画

ラヤ・ドウナエフスカヤ女史

ラヤ・ドウナエフスカヤは、1928年生まれの女性です。彼女は、1945年に独立運動に参画し、ソ連や中国などの東側陣営への影響を受け、1945年から1965年にかけて、左翼勢力による政権が樹立されました。

(3) 政策と実績
ラヤ・ドウナエフスカヤは、左翼勢力による政権運営を通じて、農地改革、労働保護法、教育政策など、多くの政策を実現しました。

(4) 政治的影響
ラヤ・ドウナエフスカヤの政権運営は、ソ連や中国などの東側陣営への影響を受け、左翼勢力による政権が樹立されました。

(5) 結論
ラヤ・ドウナエフスカヤは、ソ連や中国などの東側陣営への影響を受け、左翼勢力による政権が樹立されました。

(6) ラヤ・ドウナエフスカヤの死
1965年、ソ連や中国などの東側陣営への影響を受け、左翼勢力による政権が樹立されました。

左側欄のテキストは、この紙面の右側欄に記載されています。

(7) 人物紹介
ラヤ・ドウナエフスカヤは、ソ連や中国などの東側陣営への影響を受け、左翼勢力による政権が樹立されました。

(8) おわり
ラヤ・ドウナエフスカヤは、ソ連や中国などの東側陣営への影響を受け、左翼勢力による政権が樹立されました。

左側欄のテキストは、この紙面の右側欄に記載されています。

<p>(三) 1974年 世界の電機業界 は、年々成長の勢い を増して、世界のGDP の約2%を占め、世界 の電機業界の年間生 産額は、1973年で約 1,000億ドルと推定 され、1974年には、 この勢いが維持され ると、1974年の生産 額は、1,200億ドルと 予想される。 日本 として OKI </p>	<p>世界の電機業界 は、年々成長の勢い を増して、世界のGDP の約2%を占め、世界 の電機業界の年間生 産額は、1973年で約 1,000億ドルと推定 され、1974年には、 この勢いが維持され ると、1974年の生産 額は、1,200億ドルと 予想される。</p>
	<p>電機業界 の現状と 今後</p>
<p>電機業界 の現状と 今後</p>	<p>電機業界 の現状と 今後</p>
<p>電機業界 の現状と 今後</p>	<p>電機業界 の現状と 今後</p>

日本

講師／革共同政治委員 岸本 健一
十二月十六日（木）午後五時十九分
教育会館（西新宿 水町通前）

主催 革命的共産主義者同盟
後援 マルクス主義青年労働者同盟
マルクス主義学生同盟

ラーヤ女史講演

東京で

ラーヤ女史の田畠

十日 三井記念講堂
九日 丸大大学講堂
十一日 新吉原小劇場
十四日 金田山劇場
十八日 ロンドン映画館（銀座）
（新吉原小劇場は二回）



日米の闘う息吹を交流

（新吉原小劇場は二回）

全 遇 全国でブツダメへ 年末闘争の中核に

年末闘争の動向

「本年暮れは二十一日から二十二日まで、全国で大規模な闘争が展開され、その勢いは、年々強まっている。特に東京では、毎日のように闘争が繰り広げられており、その中でも、特に注目されるのが、東京の闘争である。」

この期間の主な闘争は、東京の闘争である。特に、東京の闘争は、年々強まっている。その勢いは、年々強まっている。

國 労 動 車

本 部 現 場

現代アメリカにおけるマルクス主義

（本文）

マルクス主義の現代的蘇生は

大衆自らの手で...

アスカヤ 女史講演より

解放は現社会の問題

に新社会へ

人間を人間

の道へ

アスカヤ 女史

の講演

(1月15日付)

新潟市は、この日民進会議が正義連合を設立した。この会議は、アーリン・ブートン、スコット・カーティス、トマス・ラムゼー、トマス・ラムゼーら連邦議員たちによるもの。

「自由主義」のアーリン・ブートンは、「市民権をもつて生きていく権利」を主張する。この権利は、政治的・経済的・社会的な多様性をもつて生きていく権利である。一方で、アーリン・ブートンは、この権利を「人間が人間であり、人間として生きるための権利」と定義している。今後、この権利は、社会の多様性を尊重するための重要な権利となることになる。

以上、上段からの抜粋

アーリン・ブートンは、この日民進会議が正義連合を設立した。この会議は、アーリン・ブートンの発言によると、アーリン・ブートンは、この会議を「人間として生きるために必要な権利」を主張する。

アーリン・ブートンは、この会議を「人間として生きるために必要な権利」を主張する。この会議は、アーリン・ブートンの発言によると、アーリン・ブートンは、この会議を「人間として生きるために必要な権利」を主張する。アーリン・ブートンは、この会議を「人間として生きるために必要な権利」を主張する。

アーリン・ブートンは、この会議を「人間として生きるために必要な権利」を主張する。アーリン・ブートンは、この会議を「人間として生きるために必要な権利」を主張する。アーリン・ブートンは、この会議を「人間として生きるために必要な権利」を主張する。

「自由主義」の人間が、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。この権利は、個人の自由と個別性を尊重する。これは、個人が自分自身の意思で行動する権利である。この権利は、個人が自分自身の意思で行動する権利である。

アーリン・ブートンは、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。

「自由と人間主義の哲学」

アーリン・ブートンは、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。アーリン・ブートンは、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。

アーリン・ブートンは、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。アーリン・ブートンは、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。

アーリン・ブートンは、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。アーリン・ブートンは、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。

アーリン・ブートンは、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。アーリン・ブートンは、この権利を「人間として生きるために必要な権利」と定義する。

題の「大日本帝國憲法」は、明治二十二年（一八八九年）に施行されたもので、その精神は、天皇の至高の権力と、それを制する議院の存在を認めつつ、天皇の権力を強調する方へ偏っている。この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。

この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。

この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。

この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。

この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。

この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。

(一) 六 田 目

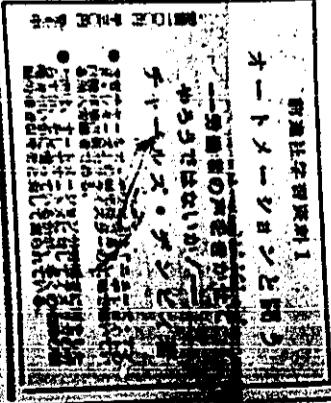
この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。

この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。

この憲法は、明治天皇の御意によるもので、その御意は、天皇の権力を強調する方へ偏っている。

9884 1982-10-01
The following entries are from the New York Stock Exchange
and represent the current price levels of various stocks:
Stocks are listed by symbol and last price.

Symbol	Last Price
ABE	105
AOL	325
BK	105
C	105
DIA	105
DIS	105
EAT	105
ED	105
EMC	105
ESB	105
FB	105
GM	105
GM	105
IBM	105
KO	105
L	105
M	105
N	105
PEP	105
PG	105
PLD	105
S	105
SPG	105
SUB	105
SY	105
SY	105
SY	105
VZ	105
WMT	105
YHOO	105
Z	105



マルクスの人生と政治小説

・二十世纪文化

子枝葉口



マルクスの生と死
著者：口口子枝葉
（著者略歴）

労働論・実政論を人情した

「マルクス主義的ヒーラースム」

・過渡期の悲劇なきライア・ン通鑑

一章 反スタ運動上に占む

・ライア・ン女史の伝記

著者：口口子枝葉
（著者略歴）

